

地 場 産 業 振 興 セ ン タ ー 新 館 屋 上 防 水 改 修 工 事  
( 余 裕 期 間 対 象 工 事 )

No	図 面 名 称
A - 01	表 紙 ・ 図 面 リ ス ト
A - 02	建 築 改 修 工 事 仕 様 書    その 1
A - 03	建 築 改 修 工 事 仕 様 書    その 2
A - 04	建 築 改 修 工 事 仕 様 書    その 3
A - 05	建 築 改 修 工 事 仕 様 書    その 4
A - 06	配 置 図 兼 仮 設 計 画 図 ・ 付 近 見 取 図
A - 07	1 階 2 階 平 面 図
A - 08	3 ～ 5 階 平 面 図
A - 09	1 期 工 事   R 階 平 面 図 （ 改 修 図 ）
A - 10	1 期 工 事   R 階 断 面 図 1 （ 改 修 前 ・ 改 修 後 ）
A - 11	1 期 工 事   R 階 断 面 図 2 （ 改 修 前 ・ 改 修 後 ）
A - 12	1 期 工 事   R 階 詳 細 図 （ 改 修 前 ・ 改 修 後 ）

監修 石川県土木部営繕課  
設計 (有)Mデザイン計画

質疑のある者は、  
指定日時までに 営繕課 へ提出すること。  
現場説明なし



最終改訂 令和8年4月1日

建築改修工事仕様書

I 工事概要

1 工事名

地場産業振興センター新館屋上防水改修工事（余裕期間対象工事）

2 工事場所

金沢市鞍月2丁目 地内

3 工事種目

屋上（5階）既存露出アスファルト防水と既存アスファルト成形板仕上け残骸の上

平部：改質アスファルトシート防水

平部（一部）：改質アスファルト系塗膜防水

立上り部：改質アスファルト系塗膜防水

設備基礎上：ウレタン塗膜防水

別途工事なし

4 完成期日

令和9年2月26日（概成工期 令和 年 月 日）  
（余裕期間制度試行工事適用の場合は、上記を完成日の期限とする。）

5 別契約関連工事

・屋外付帯工事

・補装工事

・電気設備工事

・給排水衛生設備工事

・暖房設備工事

・冷房設備工事

・換気設備工事

・空調設備工事

・昇降機設備工事

・電話設備工事

・浄化槽設備工事

・

・

II 建築工事仕様

1 共通仕様

1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版」（以下「改修標準」という。）、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」（以下「解体共仕」という。）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和7年版」（以下「標準」という。）による。

2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（ ）図、機械設備工事の工事仕様書は（ ）図による。

2 特記仕様

1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

2）特記事項は、○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と○印の付いた場合は、共に適用する。

3）特記事項に記載の（ ）内表示番号は、「標準」の該当項目、当該図又は当該表を示す。

4）（別図（ ））は、「標準」の別図「各部配筋」の当該番号を示す。

5）特記事項に記載の〔 〕内表示番号は「改修標準」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

6）〔G〕印は、「図等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（グリーン購入法）の特定調達品目を示す。該当する項目については、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。

7）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また、（ ）内は製品名を示す。

8）斜線で消去した章は適用しない。

1章 一般共通事項

特記事項

① 適用基準等

設計図書の他に、下記の図書の該当事項を適用する。  
○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和4年改定）  
・建築構造設計基準の資料（国土交通省大臣官房営繕部 令和3年改定）のうち第3章  
○営繕工事写真撮影要領（令和5年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部）  
○営繕工事電子納品要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部令和3年改定）  
・公共建築木造工事標準仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和7年版）  
・屋根瓦工事共通仕様書（石川県土木部営繕課監修 平成29年版）  
・鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）  
・壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）  
・鉄骨構造標準図（石川県土木部営繕課監修）  
・石川県バリアフリー社会の推進に関する条例（施設整備の手引き）  
○石川県公共事業景観形成ガイドライン

② 工事実績情報の登録

※登録する（但し工事請負代金額500万円以上の工事。）

③ 情報共有システム

石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。  
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html  
・利用する（発注者指定型）  
※現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）

④ 発生材の処理

1）産業廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく許可業者により運搬し、同法に基づく許可を得た処分場で処分する。  
また、処分に際しては産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に処理されていることを確認するとともに、マニフェスト一覧表を監督員に提出し、確認を受けなければならない。

2）発生材のうち引渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に引き渡す。  
イ）引渡しを要するもの及び引渡し場所・引渡を要するもの・引渡し場所  
ロ）特別管理産業廃棄物の有無・有○無  
ハ）特別管理産業廃棄物の処理方法※図面 番 図参照

3）発生材のうち、現場で再利用を図るもの及び再資源化を図るものは下記による。  
・現場で再利用を図るもの  
・再資源化を図るもの

4）せっこうボードの処理（有害物質非含有のものに限る）  
・最終処分  
・再資源化

5）PCB含有シーリング材  
分析調査する※しない

6）建設リサイクル法第11条に基づく「通知書」及び同法18条に基づく「再資源化等報告書」の提出の有無  
・有○無

5 電気保安技術者

※適用する

⑥ 施工条件

・施設を使用しながらの工事となるため、安全には十分配慮すること。  
・工事車両、現場事務所等の設置場所については施設側と協議し決定すること。

7 施工調査

⑧ 建築材料等

施工数量調査調査範囲・調査方法・調査破壊部分の補修方法

1）本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するもの、又はこれらと同等のものとする。  
①「評価基準による」と特記されたものについては、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築材料等品質性能評価事業建築材料評価基準（最新年版）」（（社）公共建築協会）によるほか、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、次の②に準じ監督員の承認を受ける。また、同上評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとみなす。  
②JIS又はJASマーク表示のない材料及びその製造所等は、次のイ）からハ）の事項を満たすものとする。また、製造所名、製品名等が記載された材料は、当該製品又は同等以上を使用する場合は、監督員の承認を受ける者とする。  
イ）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。  
ロ）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。  
ハ）安定的な供給が可能であること。  
二）法令等で定める許可、認定、又は免許等を取得していること。  
ホ）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。  
ヘ）販売保守等の営業体制が整えられていること。  
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督員に提出し承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。

2）請負契約約款第6条の2第7項に基づき調達する石川県産の工事材料については、「使用材料確認願」により監督員の確認を受け、工事完了後は地元産品について「使用材料報告書」を提出すること。

3）請負契約約款第13条第2項に定める監督員の検査を受けて使用すべき工事材料は次のものとする。  
※杭・型枠類○防水材料・石材・木材 但し、杭以外のJIS規格品は除く。

4）請負契約約款第14条第1項に定める監督員等の立会いのうえ調査等をし使用する工事材料は次のものとする。  
※高強度コンクリート試し練り

5）請負契約約款第14条第3項に定める見本は次のものとする。  
・金属製品・合成樹脂製品・木製建具・塗装  
・家具及び家具の金物・畳・内外装材料○屋根材料  
なお、監督員が承諾した材料は、証明となる資料と使用箇所を付し、工事完成まで現場事務所に掲示する。ただし、掲示が困難な材料等はカタログ、その他に代えることができる。

6）本工事に使用する建築材料等は、アスベスト含有建材を使用しないこと。（「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石棉障害予防規則等の一部を改正する省令の施行について」（厚生労働省労働基準局長通達平成18年8月）参照）。安全データシート（SDS）等により確認を行った場合は、その写しを監督員に提出すること。

⑨ 特別な材料の工法

「標準」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

⑩ 技能士等

※技能士

通用工事種別技能検定作業

仮設工事○とび作業

鉄筋工事・鉄筋組立て作業

コンクリート工事・型枠作業・コンクリート圧送工事作業

鉄骨工事・構造物鉄工作業・とび作業

ブロック・ALCパネル工事・コンクリートブロック工事作業・エーエルシーパネル工事作業

防水工事・アスファルト防水工事作業・塩化ビニルシート防水工事作業  
○改質アスファルトシートローテ工法防水工事作業  
・セメント系防水工事作業・FRP防水工事作業  
・合成ゴムシート防水工事作業○フレタゴム塗膜防水工事作業  
・アクリルゴム系塗膜防水工事作業○シーリング防水工事作業

石工事・石材加工作業・石張り作業・石積み作業

タイル工事・タイル張り作業

木工事・大工工事作業

屋根及びとい工事・内外装板金作業・かわらぶき作業

金屋工事・銅製下地工事作業・内外装板金作業

左官工事・左官作業

建具工事・ビル用サッシ施工作業・自動ドア施工作業・ガラス工事作業

カーテンウォール工事・金属製カーテン工事作業・ビム用サッシ作業・ガラス工事作業

塗装工事・建築塗装作業

内装工事・プラスチック系床仕上げ工事作業  
・カーペット系床仕上げ工事作業・木質系床仕上げ工事作業  
・ボード仕上げ工事作業・壁装作業

排水工事・建築配管作業

植栽工事・造園工事作業

・「石川の伝統的建造技術を伝える会」のうち、金城城公園整備工事従事者の認定を受けた者。

11 総合試運転調整

・行う

⑫ 完成図等

※作成する

工事完成図は、A3版製本（※1部・2部・部）を提出する。  
屋外付帯工事実測図※提出しない・提出する（1部）  
保全に関する資料※提出しない・提出する（1部）  
保全に関する資料のうち「建物等の利用に関する説明書」は、「管理者のための建築物保全の手引き（改訂版）」（（一財）建築保全センター）に建物の構造、機器、保安業務等の説明及び清掃の要点、使用材料の製造品名、連絡先等を記載したものに代えることができる。  
なお別契約の設備工事等がある場合は、連携の上作成する。

⑬ 工事写真等の記録

1）工事記録写真等は、営繕工事写真撮影要領（令和3年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部）により各号に掲げる協力をしなければならぬ。また、本仕様書の「第1章29電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。  
各区分の写真は、A4版スクラップブックに順序よく説明事項を記入の上、所定の部数を提出する。

区分分類大きさ撮影枚数部数

着工前※カラー※100×148程度※5景以上※1部

工事中※カラー※85×115程度「営繕工事写真撮影要領」による※1部

完成時※カラー※100×148程度※5景以上※1部

2）完成写真の撮影・専門業者の撮影（撮影者を明記）○専門業者以外の撮影

3）原版の使用権を次の者に移譲すること。※発注者・設計者  
移譲を受けた者は、写真撮影者の了解なしに撮影者名を表示しないで自由に使用できる。  
撮影者が写真を使用する場合は、発注者・設計者の承諾を必要とする。

4）中間検査または、監督員の指示により手直しを命ぜられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添え提出する。

⑭ 責任施工

特記事項中、責任施工の指示のあるものは、受注者及び下請負人の連帯責任とし、保証書を提出する。

⑮ 工事報告書

工事の進捗度表、作業員の出席報告、工事箇所図及び工事現況写真等を記載した工事報告書を毎月15日及び月末毎に提出する。

16 設備工事との取合い

1）設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承認を受ける。  
2）設備工事の貫通孔、開口部の型枠、スリーブ等の補強筋は本工事に含むものとする。なお箇所等は、下記による。

位置／大きさ100mm125mm150mm175mm200mm

補強筋箇所数

梁

壁

床

鉄骨部のスリーブ及び補強筋は本工事に含むものとする。  
軽鉄下地で天井、壁等の補強は本工事に含むものとする。なお箇所数は、下記による。  
イ）天井部分 箇所 ロ）壁部分 箇所  
他工事との取合い 建築工事 電気工事 機械工事 備考  
機器の基礎、換気扇取付用枠  
梁、床、壁貫通部の補強  
梁、床、壁貫通部のスリーブ、型枠  
外気取付ガラリ、床下水槽マンホール蓋  
ステンレス流し台等  
換気フード、レンジフードファン  
取付枠（鋼製）とも  
天井、壁、床、点検口、プロパンボンベ庫  
下流し、足洗場の給水、排水、玄関の排水  
小便便室切板（陶器製）、タオル掛（下地共）  
洗面所、手洗所等の鏡  
ボイラーの煙突  
実験台に付属する設備機器  
実験台の配管等の接続  
埋込み分電盤、端子盤等の壁補強  
埋込み分電盤、端子盤等の型枠  
天井、壁、ボード類の下地補強  
簡易間仕切り（内装パネル）内の位置ボックス及び配管の取付  
屋内・屋外に設置する発電機、配電盤、制御盤、受水槽、ポンプ等の基礎、防油堤  
屋上に設置するテレビアンテナ・避雷針等の設備基礎  
配線ビッド及び蓋  
照明器具幹線等の吊りボルト用インサート  
身体障害者用の手すり  
洗濯機用防水パン及びトラップ  
FF暖房機・クーラー等の配管用スリーブ  
電話・テレビ等の配線用スリーブ  
クーラー取付ボルト用インサート  
ユニットバス本体・付属品（シャワー金具・手すり・鏡・照明）  
ユニットバス用換気扇  
消火器  
自動扉、電動S、電動ルーバー、1次側配線  
防火設備の閉鎖制御機器、感知器 2次側配線  
地下タンク室

17 設計GL

※図示・設計GL＝現状GL

⑯ 建築基準法に基づき指定する条件

・地区の区分に応じた風速（V（m/sec））30（県内全域）  
・地面粗度区分・Ⅰ・Ⅱ○Ⅲ・Ⅳ  
・多雪地域の指定 垂直積雪量

⑰ 工事現場の掲示板

工事現場には、下記掲示板を設置する。（記入例）

90cm

工事名

発注者 石川県土木部営繕課

（監修）

設計

監理

施工 建築（業者名を記入する）  
電気（業者名を記入する）  
給排水（業者名を記入する）  
暖房（業者名を記入する）

この工事は、週休2日に取り組んでいます

60cm（75cm）

（注意事項）  
①（監修）内は、監修を委託した場合。  
②業者名が多くなった場合でも、縦75cm以内とする。  
③工事名は、各工事も共通な名称とし、各文字は、角ゴシック体とする。

⑱ 施工の検査等

監督員等の検査を受ける工程は次のものとする。  
※概切り掘削完了時 ※主要構造部の配筋・型枠の組立て  
その他監督員が指示するもの

⑲ 施工の立会い等

請負契約約款第14条第2項に定める監督員等の立会いのうえ施工するものは次のものとする。  
※杭打ち・コンクリートスランプ確認及び打込み・屋外タイル圧着試験  
その他監督員等の指示するもの

22 中間検査

中間検査の実施※有・無  
実施時期※躯体工事完了時・

⑳ 公共事業労務調査等に対する協力

・受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。  
1）調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。  
2）調査票等を提出した事業所が発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。  
3）正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い、就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。  
4）対象工事の一部について下請け契約を締結する場合には、当該下請け工事の受注者（当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請け人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。  
・本工事が「建設副産物実態調査」の対象である場合、工事完了後速やかに調査票を作成し、監督員に提出しなければならない。

㉑ 保険

工事目的物、工事材料等に生ずる損害を填補する保険は、下記による。  
※建設工事保険又は組立保険（工事対象物を全て解体する工事を除く）  
加入期間 引渡しまで（引き渡しを要しない工事の場合は、工事完了まで）

25 室内空気汚染対策

室内空気汚染対策

室内空気汚染対策の実施※実施する・実施しない

測定箇所数

1234

全ての測定箇所において、二）の測定対象化学物質全ての濃度を同時に測定する。  
二）測定対象化学物質及び測定方法  
測定対象化学物質は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレンとし、同時に測定する。測定方法は、パッシブ型採取機器を用い、国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長通知（平成24年4月5日官営整第4号）「官庁営繕部におけるホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」により行う。  
ホ）測定時期  
測定は下記の時期に行うものとする。  
①測定対象化学物質が、関連工事にによる測定対象室への流入や急激な拡散がほぼなくなり、引き渡し後の室内空気環境と同程度になった時期。  
②別途工事又は家具の設置等が行われる前。  
③内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること。  
④中央式空気調和設備のように換気を行いつつ空気調和を行う設備がある場合は、設備の試運転が終了していること。  
ヘ）測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合の措置  
測定結果が厚生省の指針値を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定を行う。  
ト）その他、採取、測定及び分析の方法は、上記二）の国土交通省通知によるほか、監督員の指示による。  
2）施工中・施工後の通風、換気  
接着剤、塗料等の塗布に当たっては、使用方法や塗布量を十分管理し、適切な乾燥時間をとるようにする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に放散した溶剤成分等の希釈を図るものとする。  
3）引き渡し時  
室内空気中に化学物質を放散するおそれのある建築材料等の使用状況の一覧表を提出する。  
4）揮発性有機化合物を放散させる建築材料等本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のイ）からホ）の事項を満たすものとする。  
イ）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗材は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。  
ロ）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。  
ハ）接着剤は、フル酸ジノーブチル及びフタル酸ジエーテルエチルヘキシンを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。  
ニ）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。  
ホ）上記のイ）、ハ）、ニ）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。  
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。  
※「規制対象外」のもの  
①JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品  
②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品  
③下記表示のあるJAS規格品  
ア）非ホルムアルデヒド系接着剤使用  
イ）接着剤等不使用  
ウ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料を使用  
エ）ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用  
オ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用  
カ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用  
・「第三種」のもの  
①JIS又はJASのF☆☆☆規格品  
②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品  
③旧JISのE規格品

㉒ 名札の着帯

現場代理人及び主任（監理）技術者は、工事期間中は次に定める様式例等による顔写真入り名札を着帯すること。（但し、請求額1,000万円以上の工事）

15cm

10cm

10mm

15mm

7mm

40mm

6mm

2mm

13mm

42mm

2mm

30mm

2mm

91mm

（注意事項）  
①名札として使用する用紙（台紙）は白色、寸法は上図（名刺サイズ、縦5.5cm×横9.1cm）のとおりとする。  
②顔写真（カラー写真）の寸法は縦4.0cm×横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。  
③ケースの寸法は上記①の用紙（台紙）が入る大きさとする。

㉓ 施工体制台帳の作成等

当該台帳を現場に備え付け、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げること。

設計

石川県土木部営繕課

工事名

地場産業振興センター新館屋上防水改修工事

図面名

建築改修工事仕様書 その1

図面番号

A-02

⑨

排出ガス対策型建設機械

次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。

1）バックホウ

2）トラクターショベル

3）発動発電機

4）空気圧縮機

5）ローラ類

6）ホイールクレーン

⑩

創意工夫等

工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

⑪

保険の付与及び事故の補償

1）受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。

2）受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）

3）受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び就労予定日数を的確に把握し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結1ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

⑫

電子納品

※行う（「電子納品仕様書」による。）

・行わない

電子納品仕様書

1

電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。

ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名 称

営繕工事電子納品要領（令和3年版）

官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和3年版）

基準・要領類のダウンロード [http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild\\_tk2\\_000017.html](http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html)

2

工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にCD-R、DVD-R又はBD-Rで1部納品する。

3


工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。

4

発注者が行うOALS/EC電子納品に関する調査について協力を行うものとする。

⑬

騒音振動の防止

低騒音（）、低振動型建設機械を使用する。

⑭

隣接建物又は工作物の調査

※行う

○行わない

34

敷地の状況確認

着工に先立ち地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び架設物がなければ関係機関の協力を得て確認し、報告するとともに事故を未然に防ぐよう留意する。

35

総合評価時に「おける技術提案

「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者は「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出のうえ、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。

⑮

ダンプトラック等による過積載等の防止

1）積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。

2）さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。

3）過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けること等、過積載を助長することのないようにすること。

4）取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。

5）建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。

6）「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年8月2日法律第131号）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体への加入者の使用を促進すること。

7）1から6につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

⑯

景観への配慮

当該工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく重点事業であり、景観に配慮した工事施工に努めること。

2章 仮設工事

項 目

特 記 事 項

①

工事用水

構内既存の施設

○利用できる（※有償・無償）

※利用できない

②

工事用電力

構内既存の施設

・利用できる（※有償・無償）

⊗利用できない

③

工事用道路

工事用道路（敷地内外）は良好なる維持管理を行い、使用後は請負者において速やかに原形に復旧すること。

4

指定仮設

指定仮設の適用

・仮囲い

・数鉄板（※図示）

仮囲いは、下記により強風に対して倒壊、飛散等しない堅固な構造とし、事前に施工図を提出して監督員の承諾を受けること。

イ）材料

・鋼板

・亜鉛波形鉄板

・単管バリケード

ロ）高さ

・1.8m

・2.0m

・3.0m

ハ）塗装

・する

・しない

・塗装品

ニ）延長

・ m

その他の指定仮設（種別、規格、仕様）

5

足場その他

1）外部足場

[2.2.1]

(1)足場の種類

※組本足場（手すり先行足場）

・くさび緊結式足場（手すり先行足場）

足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省 令和5年12月26日）に規定する「（別紙1）手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2（1）手すり振置き方式又は（2）手すり先行専用足場方式により行うこと。

(2)建枠・布枠

建 枠

・1.200枠

・900枠

・600枠

布 枠

・500布枠×2枚

※500+240布枠

・500布枠×1枚

(3)防護シート等による養生

※設置する

※ネット状養生シート又は養生シート

・防音パネル

なお、出入口等の上部は必要に応じて防護柵を設ける。

・設置しない

2）内部足場

[2.2.1]

種別

・

・

※きやたつ、足場板等

3）材料、撤去材の運搬方法

[2.2.1][表2.2.1]

・A種

※B種

・C種

・D種

・E種

⑥

既存部分の養生

既存部分の養生方法

・

※ビニールシート等

既存家具等の養生

・

※ビニールシート等

既存ブラインド・カーテン等の養生方法、保管場所

・図示

固定された備品、机、ロッカー等の移動

・行う（図示）

7

仮設間仕切

1)仮設間仕切り種別

[2.3.2][表2.3.1]

種 別

下 地

仕上げ材（厚さmm）

充填材（mm）

塗 装

・A種

※軽量鉄骨

※せつこうボード（※9.5・）

厚さ（ ）

※無し・有り

・B種

・木造

・合板（※9・）

・有り

※C種

単管

防火シート

仮設扉

※木製扉

合板張り程度

・行う厚さ（ ）

※無し・有り

⑧

監督員事務所

※設ける

・既存建物の一部を使用

○設けない

[2.4.1]

監督員事務所の規模（㎡）

種 別

・1号

・2号

・3号

・4号

・5号

面 積

10程度

20程度

35程度

65程度

100程度

監督職員事務所に設ける備品等

※保護帽

※塗落防止用器具

※長靴

※合羽

※原図大及びA3縮小の設計図面製本各2部

※机

※椅子

※懐中電灯

・書棚

・黒板

・寒暖計

・

⑨

快適トイレ

（快適トイレ実施要領に基づく）

○快適トイレを設置すること

※監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる

快適トイレを設置した場合は設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。

10

危険物貯蔵所

シンナー等有機溶剤を使用する場合は、特に火災及び盗難について管理を徹底する。

[2.4.2]

11

仮設物撤去他

原形復旧の方法・内容

・

[2.5.1]

⑫

公衆災害防止等

建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）及び建設副産物適正処理推進要綱関係規定を遵守して災害の防止に努めることとする。

3章 防水改修工事

項 目

特 記 事 項

①

一般事項

降雨等に対する養生

・

[3.1.3]

改修工法の種類

・

[表3.1.1]

2

アスファルト防水

1)防水改修工法の種類

[3.3.3]

防水改修工法の種類

施 工 箇 所

新規防水工法の種類

・P1B

※B-1

※B-2

・P1B1

※B1-1

※B1-2

・P2A1

※A1-1

※A1-2

・A1-3

・P2A

※A-1

※A-2

・A-3

・M4C

※C-1

※C-2

・C-3

・C-4

・P0D

※D-1

※D-2

・P0D1

※D1-1

※D1-2

・P1E

※E-1

※E-2

・P2E

2)アスファルトの種類

※3種

・4種

[3.2.2][3.3.2]

3)二重ドレン

・設ける（・PODI工法

・PODI工法）

[3.2.5]

4)既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去（M4C工法、M4D1工法）

・行う

[3.2.6]

5)断熱工法の断熱材の厚さ（mm）

※25

・

[3.3.2]

断熱材はグリーン購入法における特定調達品目を使用すること

[3.3.2]

6)立上り部防水層保護

[3.3.2]

・市販品のれんが、又はれんが形コンクリートブロック（見え隠れ部分）

・乾式保護材

7)仕上げ塗料塗り（C-1、C-3、D-1、D-3、D1-1、D1-2）

※有り（・シルバー

・カラー

）

使用量は製造所標準仕様

8)屋上排水溝

・図示（水勾配は1/200以上とする）

③

改質アスファルトシート防水

1)防水改修工法の種類

[3.4.3][表3.4.1~3]

防水改修工法の種類

施 工 箇 所

新規防水工法の種類

密着工法

○M4AS

○屋上

・AS-T1

・AS-T2

○AS-J2

絶縁工法

・M3AS

・POAS

・AS-T3

・AS-T4

・AS-J1

・AS-J3

断熱工法

・M3ASI

・M4ASI

・POASI

・AS1-T1

・AS1-J1

2)二重ドレン

設ける（・POAS工法

・POASI工法）

[3.2.5]

3)既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去（M4AS工法、M4ASI工法）

・行う

[3.2.6]

4)断熱工法の断熱材の厚さ（mm）

※25

・

[3.4.2]

5)下地に部分的に密着又は接着を行う工法

[3.4.4]

※製造所の標準仕様

4

合成高分子系メフタジート防水

1)防水改修工法の種類

[3.5.3]

防水改修工法の種類

施 工 箇 所

新規防水工法の種類

接合工法

・POS

・S4S

・S3S

・M4S

・P1S

・S-F1

・S-F2

・S-C1

機械的固定工法

・POS

・S4S

・S3S

・M4S

・S-M1

・S-M2

・S-M3

断熱工法

・POS1

・S4S1

・S3S1

・M4S1

・S1-F1

・S1-F2

・S1-M1

・S1-M2

2)仕上げ塗料塗り（S-F1、S1-F1、S-M1、S1-M1の場合）

・シルバー

・カラー

[3.2.6]

3)新規防水層の仕分け

・非歩行

・軽歩行

[3.4.2]

4)断熱材はグリーン購入法における特定調達品目を使用すること。

[3.5.2]

・架橋形発泡ポリエチレンフォーム 厚さ（ ）mm

・押出法ポリエチレンフォーム3種B 厚さ（ ）mm

5)PCコンクリート部材下地

[3.5.4]

目地処理（接着工法）

※図示

入隅部の増張り（種別S-F1の場合）

・行う（幅 mm程度）

6)二重ドレン（POS、POS1）

※設ける

[3.2.5]

⑤

ウレタン系塗膜防水

1)防水改修工法の種類

[3.1.4][表3.1.1][3.6.3][表3.6.1]

防水改修工法の種類

施 工 箇 所

新規防水層の種類

仕上げ塗料塗り

・POX

※X-1

・X-2

・シルバー

○L4X

○設備基礎上

・X-1

※X-2

・カラー

2)二重ドレン（・POX工法の場合）

・設ける

[3.2.5]

3)既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去（L4X工法の場合）

・行う

[3.2.6]

⑥

シーリング

1)改修方法の種類

[3.1.4][表3.1.2][3.7.4~7]

改修方法の種類

施 工 箇 所

○シーリング充填工法

○シート防水端部 水切り

・シーリング再充填工法

・拡幅シーリング再充填工法

・ブリッジ工法

2)ボンドブレード張り及びエッジング材張り（ブリッジ工法の場合）

[3.7.7]

3)シーリング材の種類及び施工箇所

[3.7.2][表3.7.1]

下表以外は、改修仕様表3.7.1を標準とする

施 工 箇 所

シーリング材の種類（記号）

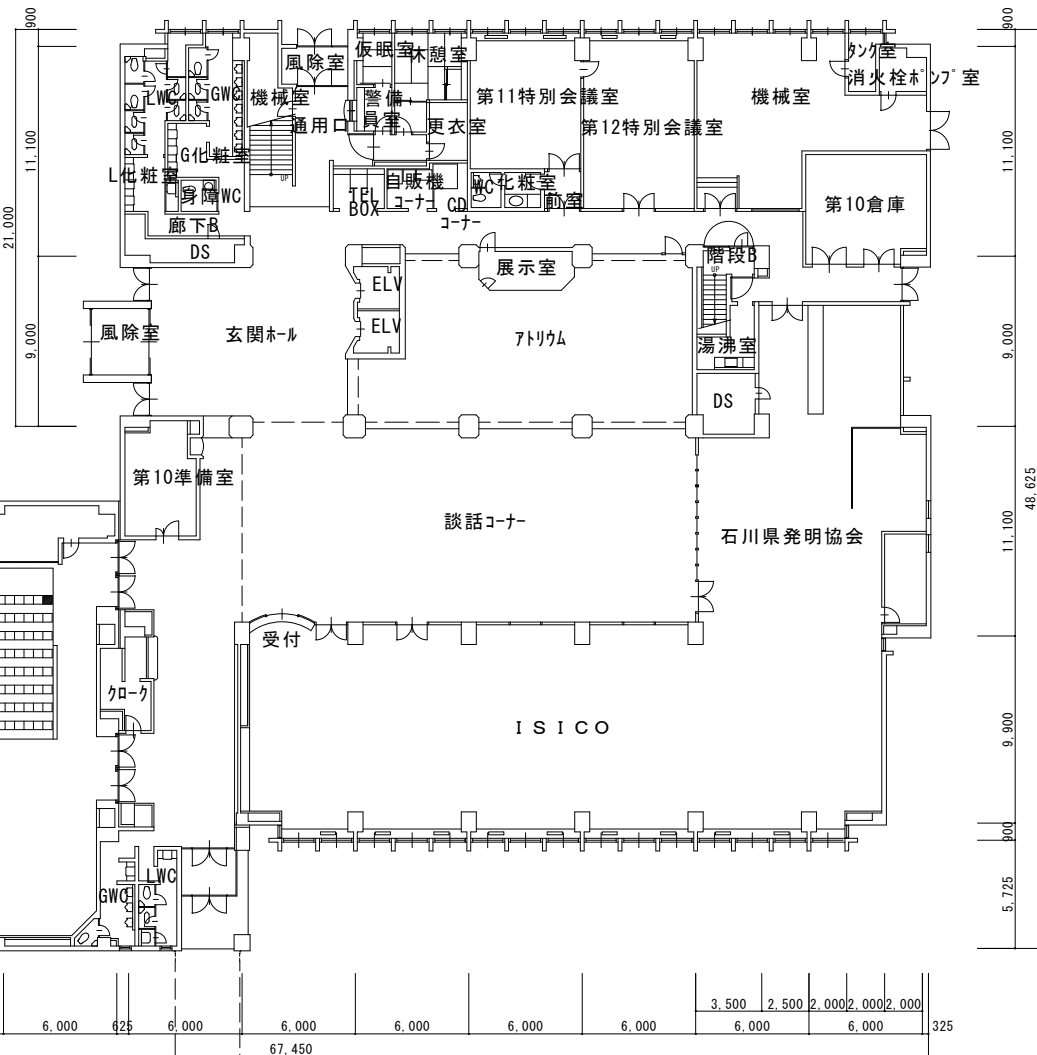
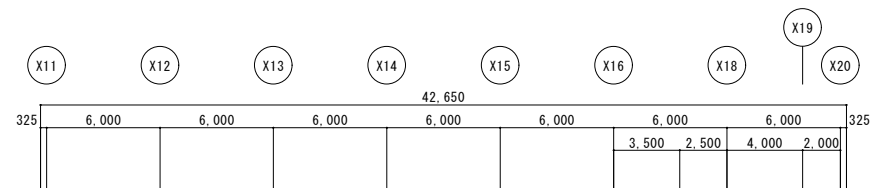
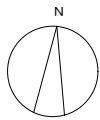
<

4	浮き部改修工法	モルタルを撤去しない場合	[4.1.4][4.3.5][4.3.11～16][表4.3.5～6]				④見本の製作等 ・建具見本の製作（建具番号） ・特殊な建具の仮組（建具番号） ⑤建具回り等の充填モルタル 防水剤（モルタルに混入する防水剤の品質）	[5.1.5]	13	重量シャッター	1）形式及び機構				[5.11.2][表5.11.1]	項目	6章 内装改修工事																																										
			改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )						注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)				種 別		開閉機構		危害防止機構		シャッターケース		特 記 事 項																																		
1	既存タイル張りの撤去	・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲 撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで					・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法 ※16 ※25 ・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25 ・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※50 ・注入口付アンカーピン部分 エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ・注入口付アンカーピン全面 エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※25 ・注入口付アンカーピン全面 エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※25 ・注入口付アンカーピン全面 エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※50 アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン 材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm	[4.3.5] [4.3.5]	2	アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能等級				[5.2.2][5.2.4][表5.2.1]	14	軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用） 外部に面するシャッターの耐風圧強度				[5.12.2][表5.12.1] [5.12.2]	2	壁改修一般事項	1）工法 (1) ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ（接着剤とも） ・下地モルタルとも（※図示の範囲 ・除去範囲全て） 合成樹脂塗り床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒工法 (2) 改修後の床清掃範囲 ※改修箇所の室内 1）工法 (1) 既存壁撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 (2) 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 (3) 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※図示 ・モルタル塗り 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ・適用する（範囲は図示） ※ステンレス製アンカーピンを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る ・図示 2）新設壁下地 ・木製壁下地 ・軽量鉄骨壁下地																																		
			注入工法の種類		ひび割れ幅 (mm)						注入口間隔 (mm)		注入量 (ml/m <sup>2</sup> )					種 別		色合い等					種 別		開閉方式		収納形式		ガイドレールの材料																												
2	ひび割れ部改修工法	改修箇所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面（・コンクリート面 ・モルタル面） ※樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.5][4.4.5～6] ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～1.0以下 ※200～300 ※ ・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上～0.3以下 ※50～100 ※40 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5超え～1.0以下 ※70～200 ※25 ・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5超え～1.0以下 ※150～250 ※130 注入材料 ※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024低粘度形又は中粘度形） 検査（コア抜取り） ※行わない ・行う（抜取り部の補修方法：） ・ウカットシール材充填工法（既存タイル張り撤去面） [4.1.4][4.2.4][4.2.6] 充填材料 種 別 備 考 ・シーリング材 ※1成分形又は2成分形 ※ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・行う ・可とう性エポキシ樹脂 ※2.4による	[4.4.5] [4.2.5]	3	網戸	1）外部に面する建具の性能値等				[5.3.2][5.3.4][表5.3.1]	15	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	16	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	17	ガラス留め材	建具の種類 種 別 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガasket（F I X部はシーリング材） 鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材				[5.14.3]	18	ガラス溝	板ガラスをはめ込む溝の大きさ ※「改修標準」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等 が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。				[5.14.3]	19	ガラスブロック積み	ガラスブロック 寸法 (mm) 表面形状 性能等 呼び寸法 厚さ 色 調 パターン 防火性能 耐火性能 ※クリア ※無し ※無し 壁用金属枠及び補強材 壁用金属枠の種類 規格及び補強材等 ※アルミニウム製 ※改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による 化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1] 下表以外は改修標準仕表3.7.1による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記号 主成分による区分 耐久性による区分 ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受けた条件による。				[5.14.3]	20	ガラス用フィルム	名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム G I ※内張り ・外張り ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム G D 品質 JIS A 5759による				[5.14.3]	21	ガラス用フィルム	名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム G I ※内張り ・外張り ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム G D 品質 JIS A 5759による				[5.14.3]
						改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )					注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)					種 別		色合い等					種 別		開閉方式					収納形式		ガイドレールの材料																							
3	欠損部改修工法	・タイル部分張替え工法 張付け材料 ※ポリマーセメントモルタル ・接着剤（JIS A 5557に基づく一液反応硬化型の変成シリコーン樹脂系） ・タイル張替え工法 張付け材料 ・張付けモルタル（・現場調査 ・既調査） ・接着剤（JIS A 5557に基づく一液反応硬化型の変成シリコーン樹脂系）	[4.4.5] [4.2.5]	4	標準型鋼製建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による ・適用する（適用箇所は建具表による） 外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][5.4.6][表5.4.1] 耐風圧性 施 工 箇 所 ・S-4 ・S-5 ・S-6				[5.4.2][5.4.6] [表5.4.1]	17	ガラス留め材	建具の種類 種 別 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガasket（F I X部はシーリング材） 鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材				[5.14.3]	18	ガラス溝	板ガラスをはめ込む溝の大きさ ※「改修標準」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等 が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。				[5.14.3]	19	ガラスブロック積み	ガラスブロック 寸法 (mm) 表面形状 性能等 呼び寸法 厚さ 色 調 パターン 防火性能 耐火性能 ※クリア ※無し ※無し 壁用金属枠及び補強材 壁用金属枠の種類 規格及び補強材等 ※アルミニウム製 ※改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による 化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1] 下表以外は改修標準仕表3.7.1による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記号 主成分による区分 耐久性による区分 ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受けた条件による。				[5.14.3]	20	ガラス用フィルム	名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム G I ※内張り ・外張り ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム G D 品質 JIS A 5759による				[5.14.3]																					
						改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )					注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)					種 別		色合い等					種 別		開閉方式					収納形式		ガイドレールの材料																							
4	浮き部改修工法	モルタルを撤去しない場合	[4.1.4][4.3.5][4.4.9～15][表4.3.5～6]				④見本の製作等 ・建具見本の製作（建具番号） ・特殊な建具の仮組（建具番号） ⑤建具回り等の充填モルタル 防水剤（モルタルに混入する防水剤の品質）	[5.1.5]	13	重量シャッター	1）形式及び機構				[5.11.2][表5.11.1]	項目	6章 内装改修工事																																										
			改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )						注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)				種 別		開閉機構		危害防止機構		シャッターケース		特 記 事 項																																		
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 工 法 処 理 範 囲 ※サンダー工法 ※既存仕上げ面全体 ・ひび割れ部改修工法 ・高圧水洗工法 ※既存仕上げ面全体 ・浮き部改修工法 ・薬液はく離剤工法 ※既存仕上げ面全体 ・欠損部改修工法 ・水洗工法 ※上記処理範囲以外既存仕上げ面全体	[4.5.4][4.5.4～7]	2	下地調整材	※下地調整塗材 ※ポリマーセメントモルタル				[4.5.4]	14	軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用） 外部に面するシャッターの耐風圧強度				[5.12.2][表5.12.1] [5.12.2]	2	壁改修一般事項	1）工法 (1) 既存壁撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 (2) 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 (3) 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※図示 ・モルタル塗り 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ・適用する（範囲は図示） ※ステンレス製アンカーピンを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る ・図示 2）新設壁下地 ・木製壁下地 ・軽量鉄骨壁下地																																							
						改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )					注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)					種 別		色合い等		種 別		開閉方式		収納形式		ガイドレールの材料																													
2	下地調整材塗り	※下地調整塗材 ※ポリマーセメントモルタル	[4.5.4]	3	タイル張り	タイル張りの工法				[4.5.4]	15	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	16	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	17	ガラス留め材	建具の種類 種 別 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガasket（F I X部はシーリング材） 鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材				[5.14.3]	18	ガラス溝	板ガラスをはめ込む溝の大きさ ※「改修標準」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等 が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。				[5.14.3]	19	ガラスブロック積み	ガラスブロック 寸法 (mm) 表面形状 性能等 呼び寸法 厚さ 色 調 パターン 防火性能 耐火性能 ※クリア ※無し ※無し 壁用金属枠及び補強材 壁用金属枠の種類 規格及び補強材等 ※アルミニウム製 ※改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による 化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1] 下表以外は改修標準仕表3.7.1による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記号 主成分による区分 耐久性による区分 ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受けた条件による。				[5.14.3]	20	ガラス用フィルム	名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム G I ※内張り ・外張り ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム G D 品質 JIS A 5759による				[5.14.3]							
						改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )					注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)					種 別		色合い等					種 別		開閉方式					収納形式		ガイドレールの材料																							
3	タイル張り	タイル張りの工法	[4.5.4]	4	タイル張り	タイル張りの工法				[4.5.4]	15	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	16	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	17	ガラス留め材	建具の種類 種 別 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガasket（F I X部はシーリング材） 鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材				[5.14.3]	18	ガラス溝	板ガラスをはめ込む溝の大きさ ※「改修標準」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等 が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。				[5.14.3]	19	ガラスブロック積み	ガラスブロック 寸法 (mm) 表面形状 性能等 呼び寸法 厚さ 色 調 パターン 防火性能 耐火性能 ※クリア ※無し ※無し 壁用金属枠及び補強材 壁用金属枠の種類 規格及び補強材等 ※アルミニウム製 ※改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による 化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1] 下表以外は改修標準仕表3.7.1による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記号 主成分による区分 耐久性による区分 ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受けた条件による。				[5.14.3]	20	ガラス用フィルム	名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム G I ※内張り ・外張り ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム G D 品質 JIS A 5759による				[5.14.3]							
						改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )					注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)					種 別		色合い等					種 別		開閉方式					収納形式		ガイドレールの材料																							
4	タイル張り	タイル張りの工法	[4.5.4]	5	タイル張り	タイル張りの工法				[4.5.4]	16	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	17	ガラス留め材	建具の種類 種 別 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガasket（F I X部はシーリング材） 鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材				[5.14.3]	18	ガラス溝	板ガラスをはめ込む溝の大きさ ※「改修標準」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等 が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。				[5.14.3]	19	ガラスブロック積み	ガラスブロック 寸法 (mm) 表面形状 性能等 呼び寸法 厚さ 色 調 パターン 防火性能 耐火性能 ※クリア ※無し ※無し 壁用金属枠及び補強材 壁用金属枠の種類 規格及び補強材等 ※アルミニウム製 ※改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による 化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1] 下表以外は改修標準仕表3.7.1による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記号 主成分による区分 耐久性による区分 ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受けた条件による。				[5.14.3]	20	ガラス用フィルム	名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム G I ※内張り ・外張り ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム G D 品質 JIS A 5759による				[5.14.3]														
						改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )					注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)					種 別		色合い等					種 別		開閉方式					収納形式		ガイドレールの材料																							
5	タイル張り	タイル張りの工法	[4.5.4]	6	タイル張り	タイル張りの工法				[4.5.4]	17	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	18	ガラス留め材	建具の種類 種 別 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガasket（F I X部はシーリング材） 鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材				[5.14.3]	19	ガラスブロック積み	ガラスブロック 寸法 (mm) 表面形状 性能等 呼び寸法 厚さ 色 調 パターン 防火性能 耐火性能 ※クリア ※無し ※無し 壁用金属枠及び補強材 壁用金属枠の種類 規格及び補強材等 ※アルミニウム製 ※改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による 化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1] 下表以外は改修標準仕表3.7.1による 被着体の組合せ シーリング材の種類 記号 主成分による区分 耐久性による区分 ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受けた条件による。				[5.14.3]	20	ガラス用フィルム	名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム G I ※内張り ・外張り ・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム G D 品質 JIS A 5759による				[5.14.3]																					
						改修工法の種類		アンカーピンの本数 (本/m <sup>2</sup> )					注入口の箇所数 (箇所/m <sup>2</sup> )		充填量 又は注入量 (ml/箇所)					種 別		色合い等					種 別		開閉方式					収納形式		ガイドレールの材料																							
6	タイル張り	タイル張りの工法	[4.5.4]	7	タイル張り	タイル張りの工法				[4.5.4]	18	ガラス	ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ-1類 （JIS R 3205） ・強化ガラス 材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206） ※フロート強化ガラス Ⅲ類（曲面はⅠ類） ・型板強化ガラス ・熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調 ※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン ・複層ガラス 種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分 ・断熱複層ガラス ※U3-1 ・U3-2 ・U1 ・U2 ・日射遮へい複層ガラス ・E4 ・E5 ・熱線反射板ガラス 品 種 反射率・透過率 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整 ※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない ※高性能熱線反射 内面 ・グレー ・グレー ・ブロンズ ・シルバー ガラス ・倍強度ガラス ・倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ※フロート倍強度ガラス ・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ ガラスの小口処理 ガラス端部に枠にのみ込まない部分の小口加工 ※適用は建具表による				[5.13.2][表3.7.1]	19	ガラス留め材	建具の種類 種 別 アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガasket（F I X部はシーリング材） 鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材 ステンレス製 ※シーリング材				[5.14.3]	20	ガラス溝	板ガラスをはめ込む溝の大きさ ※「改修標準」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等 が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。				[5.14.3]	21	ガラス用フィルム	名 称 記 号 張り面 ・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム G I ※内張り ・外張り																									

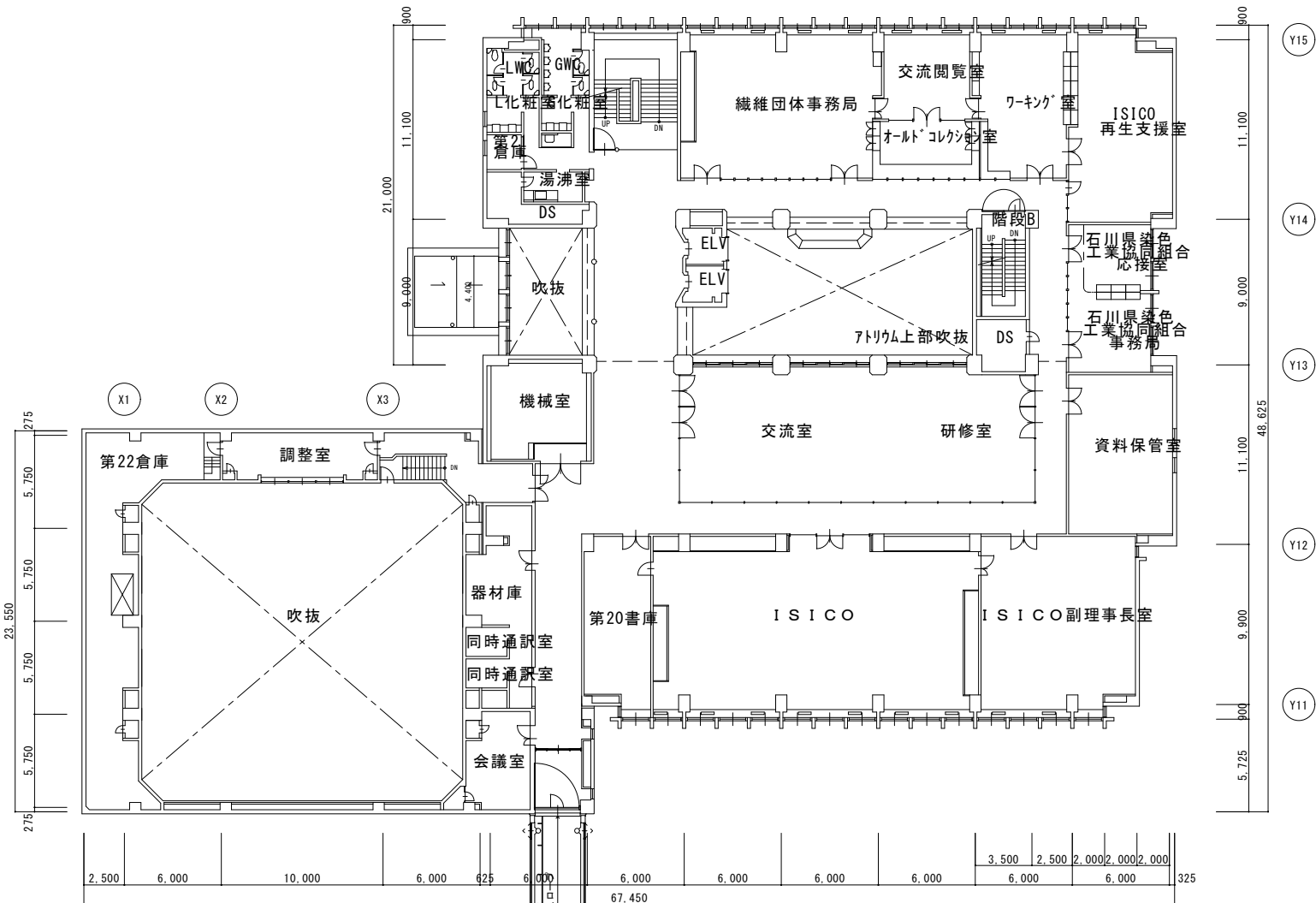
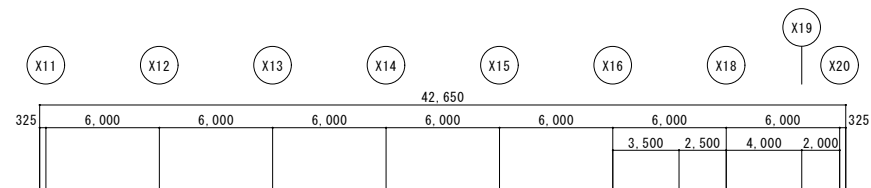
[illegible]

案内図





新館 1階平面図



新館 2階平面図



一級建築士事務所 石川県知事 第 13322 号

(有) Mデザイン計画

一級建築士 第 215340 号 松本 勝

check

drawing



date

scale

A1 : 1/200  
A3 : 1/400

no.

title

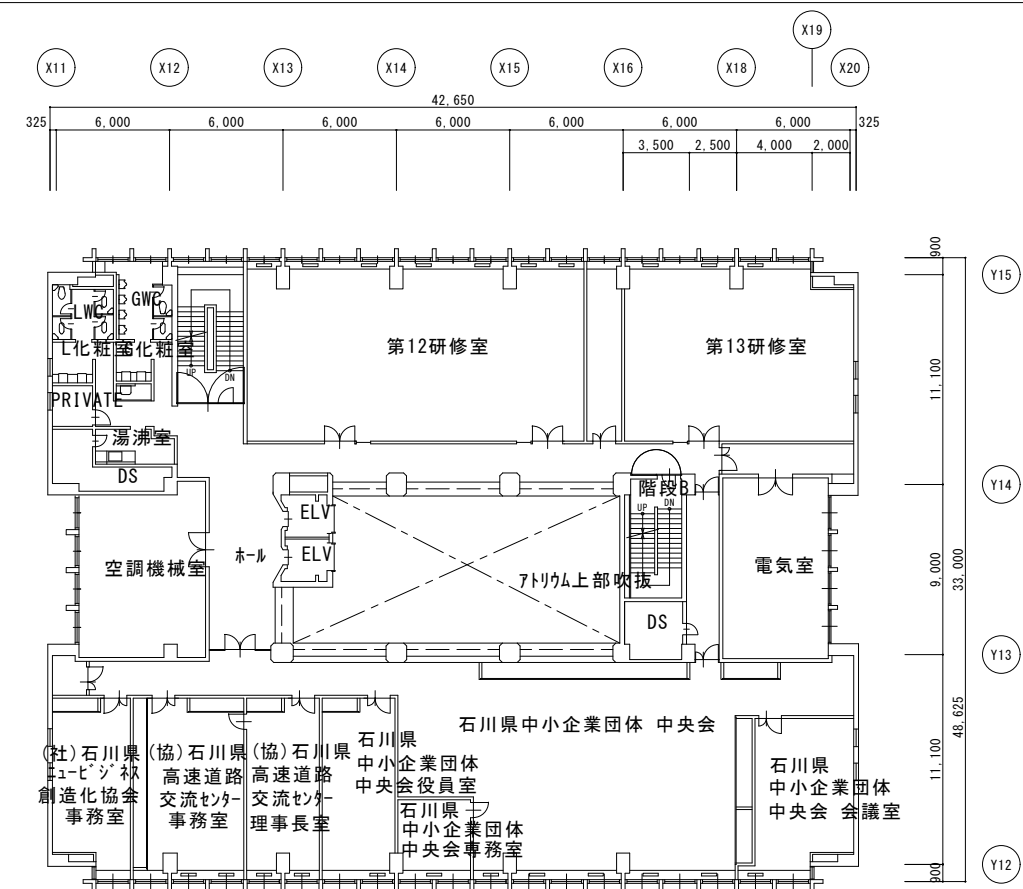
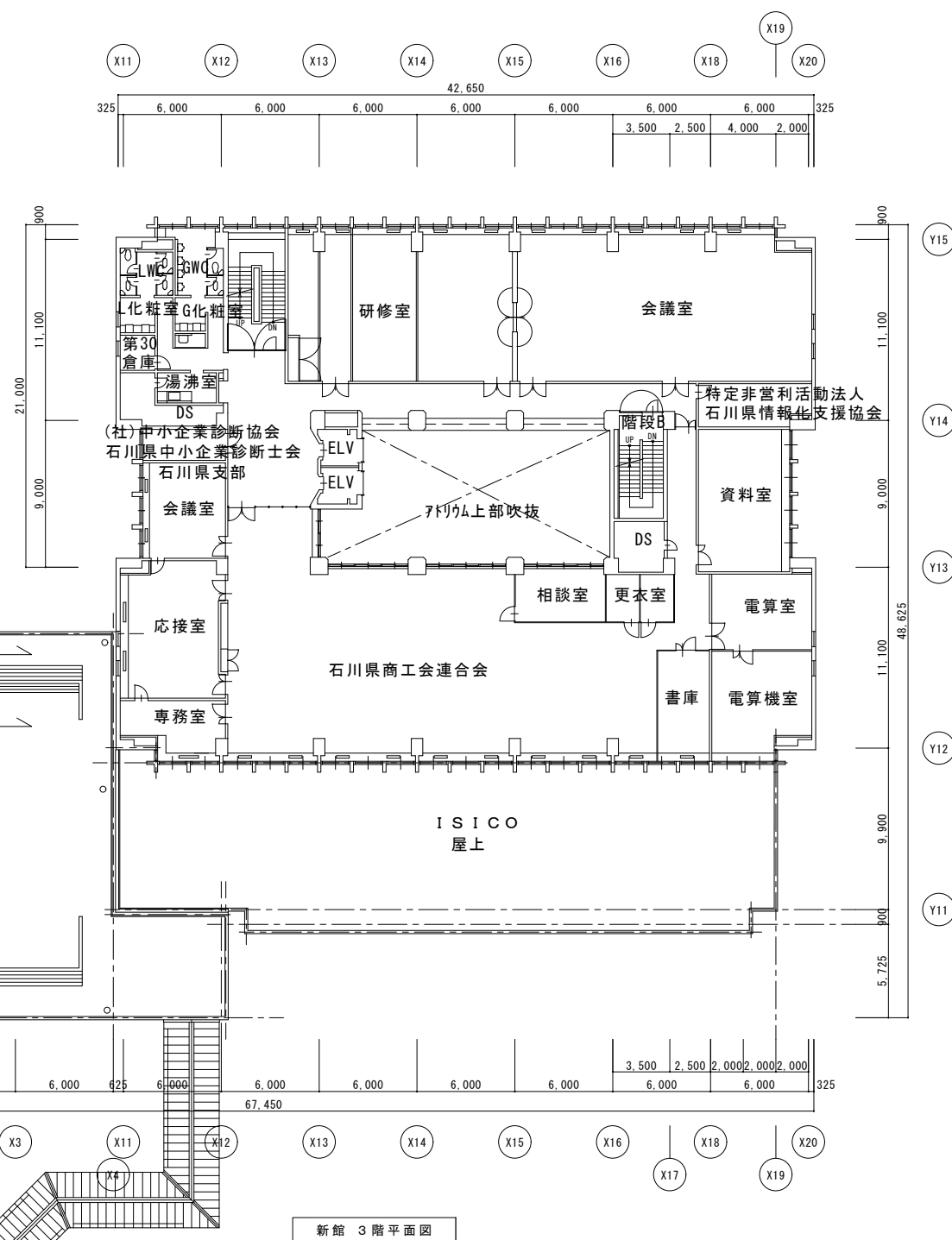
地場産業振興センター新館屋上防水改修工事

drawing no.

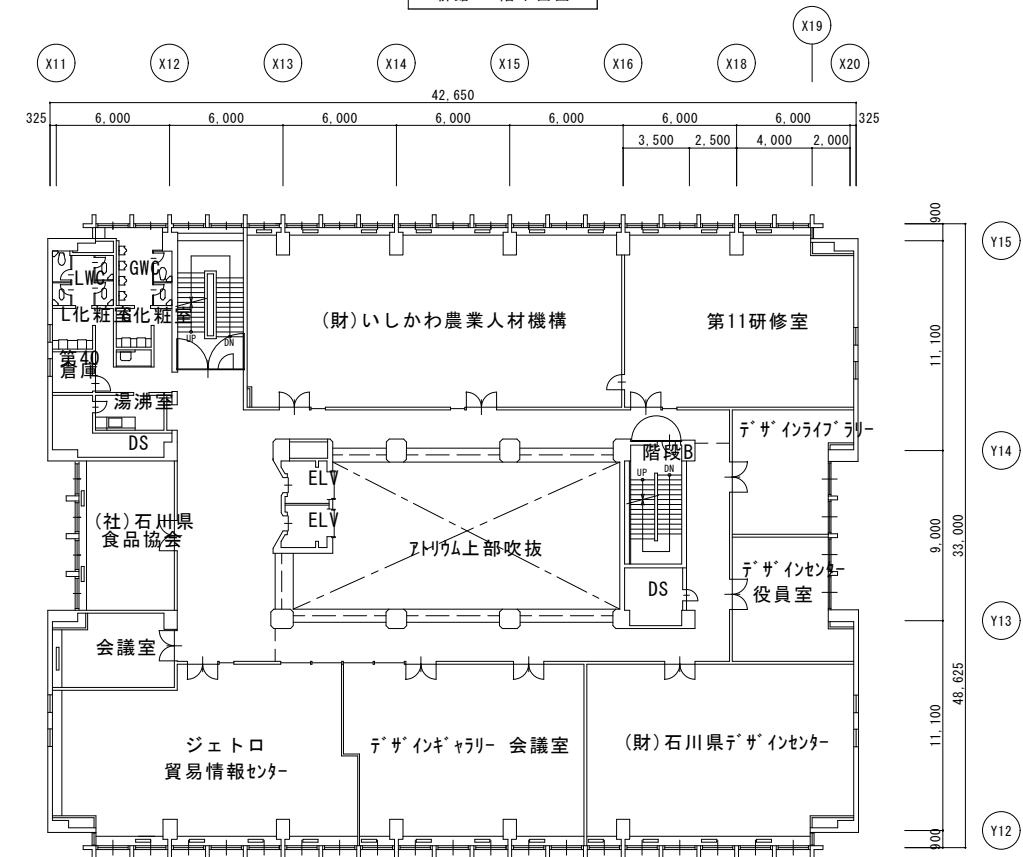
A-07

drawing title

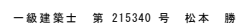
1階2階平面図



新館 5 階平面図



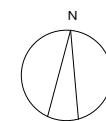
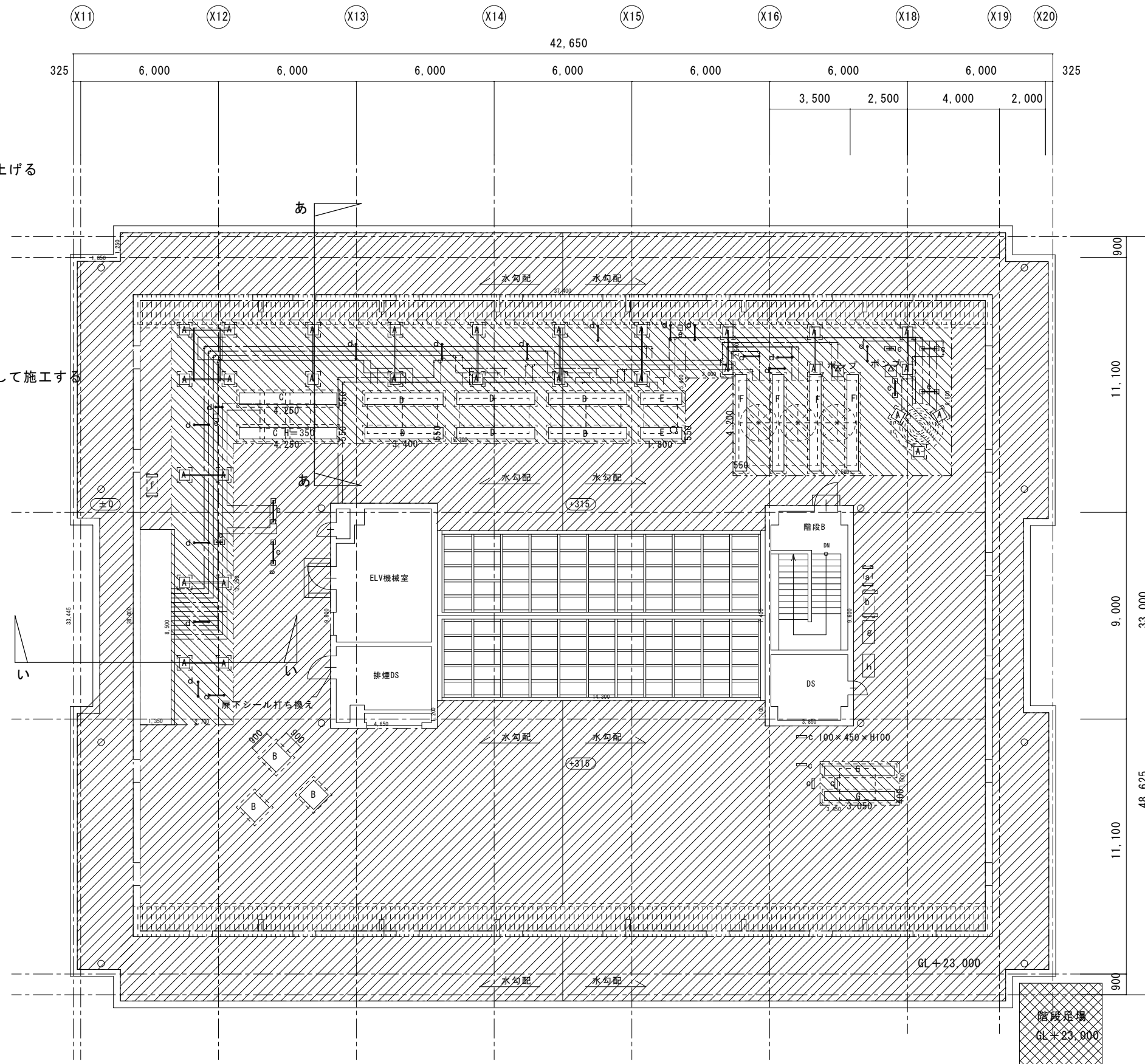
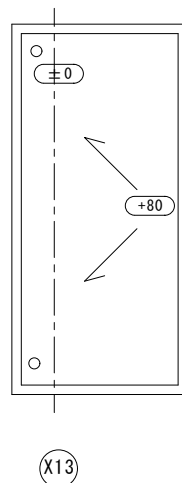
新館 4 階平面図





3 ~ 5 階平面図

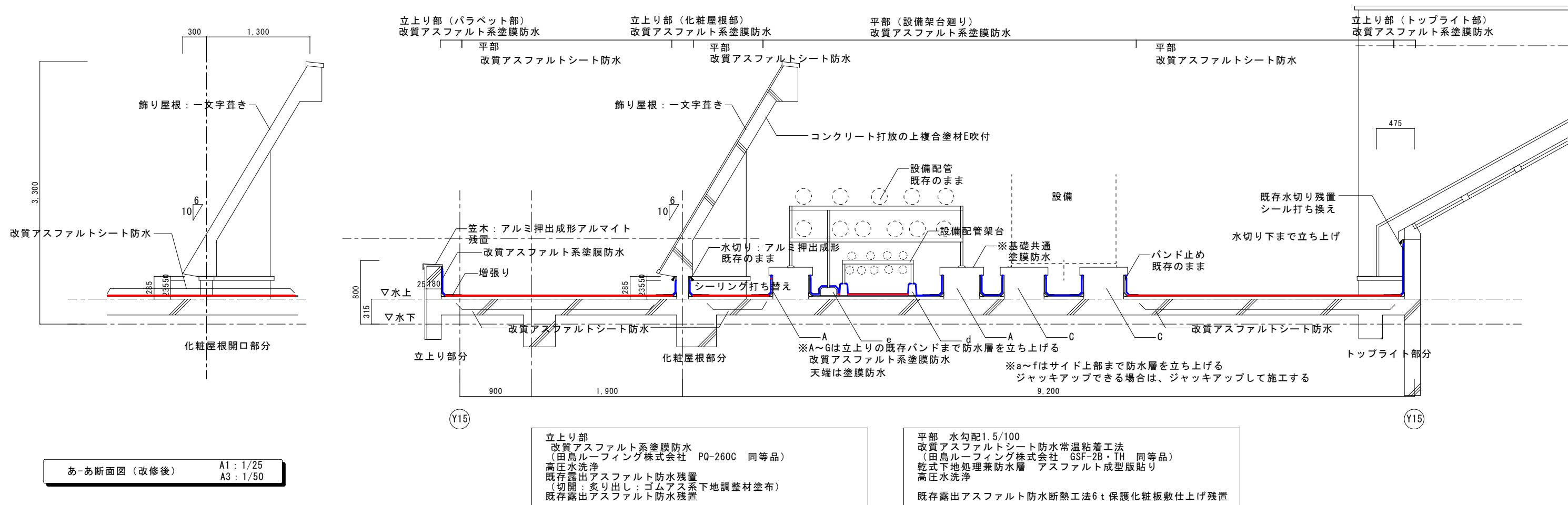
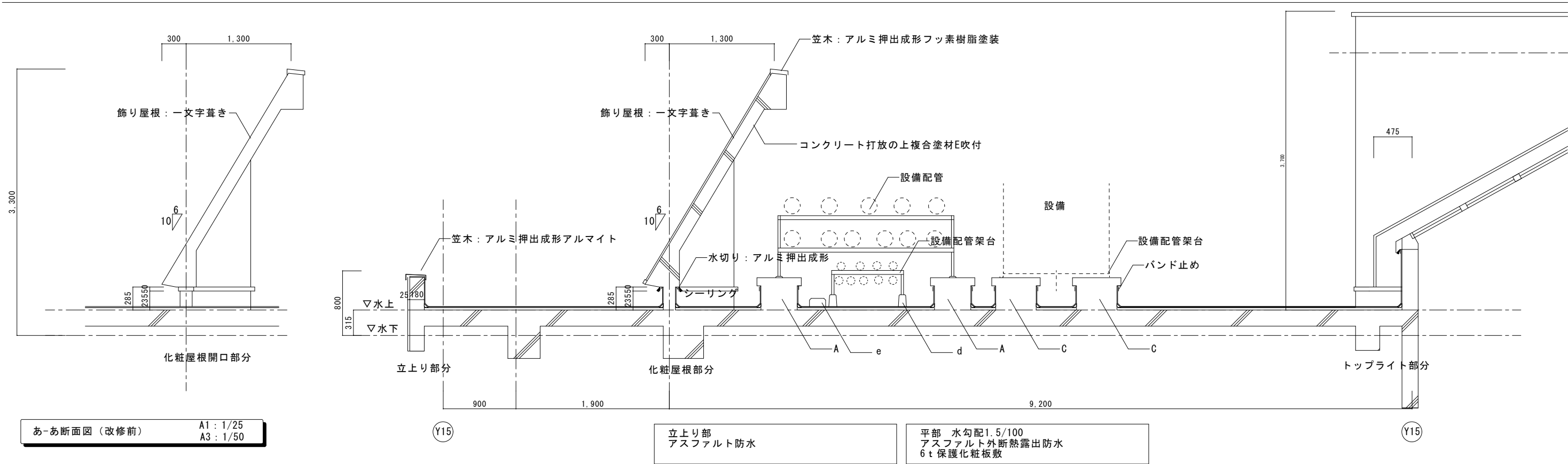


- |                             |         |                   |      |       |
|-----------------------------|---------|-------------------|------|-------|
| ＝ a                         | 室外機架台基礎 | 450 × 100 × H90   | 2か所  |       |
| ＝ b                         | 室外機架台基礎 | 650 × 120 × H120  | 2か所  | ----- |
| ＝ c                         | 配管基礎    | 100 × 450 × H100  | 4か所  | ----- |
| ○ d                         | 配管基礎    | 100φ × H150       | 32か所 |       |
| □ e                         | 配管基礎    | 200 × 200 × H100  | 15か所 |       |
| f                           | 室外機架台基礎 | 500 × 120 × H100  | 2か所  |       |
| ※a～fはサイド上部まで防水層を立ち上げる       |         |                   |      |       |
| ジャッキアップできる場合は、ジャッキアップして施工する |         |                   |      |       |
| □ g                         | 室外機架台基礎 | 500 × 1000 × H100 | 1か所  |       |
| h                           | 室外機架台基礎 | 500 × 1000 × H100 | 1か所  |       |
| ※g～hはサイド上部まで防水層を立ち上げる       |         |                   |      |       |



-  改質アスファルトシート防水  
 ※立上り部は改質アスファルト系塗膜防水  
 改質アスファルト系塗膜防水  
 ※立上り部は改質アスファルト系塗膜防水

R階平面図



一級建築士事務所 石川県知事 第 13322 号

(有) Mデザイン計画

一級建築士 第 215340 号 松本 勝

check

drawing



date

scale

A1: 1/25  
A3: 1/50

no.

title

地場産業振興センター新館屋上防水改修工事

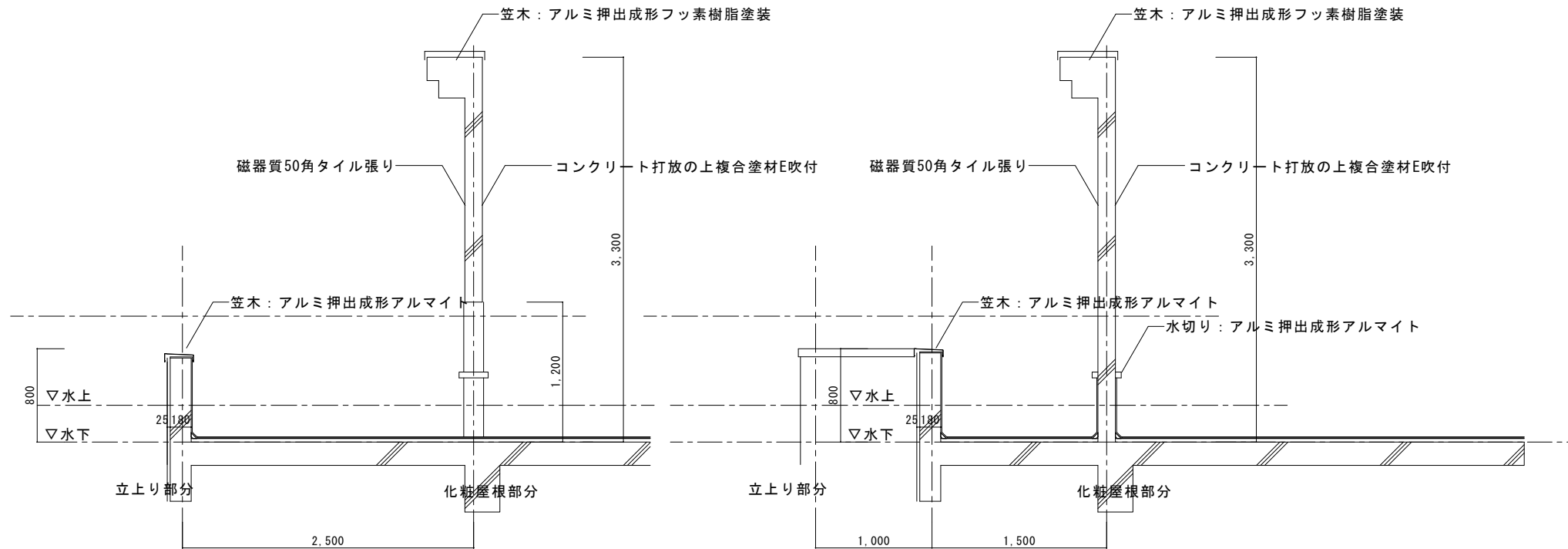
drawing no.

A-10

drawing title

1 期工事

R階 断面図 1 (改修前・改修後)



い-い断面図（改修前）

A1 : 1/25  
A3 : 1/50

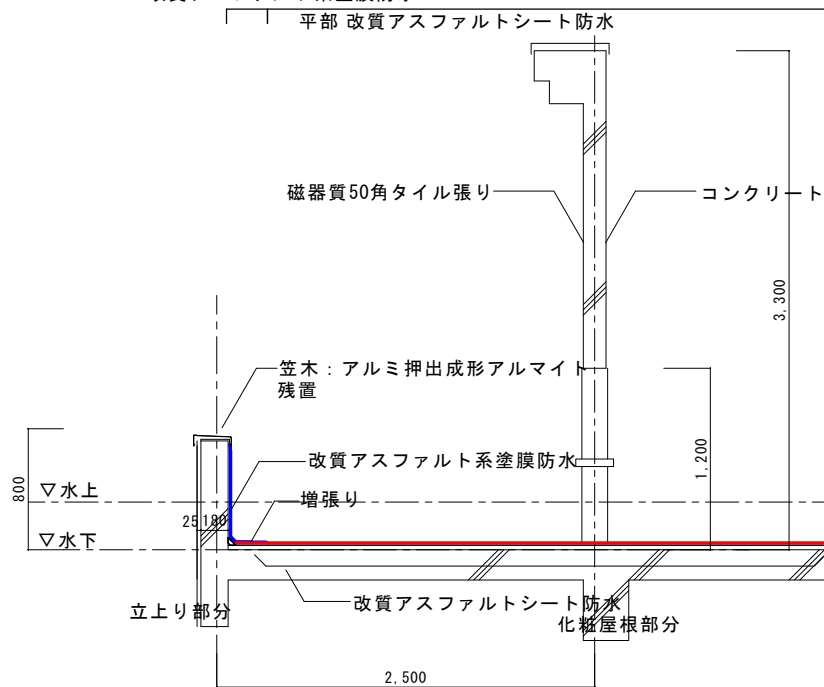
(X11)

(X11)

立上り部  
アスファルト防水

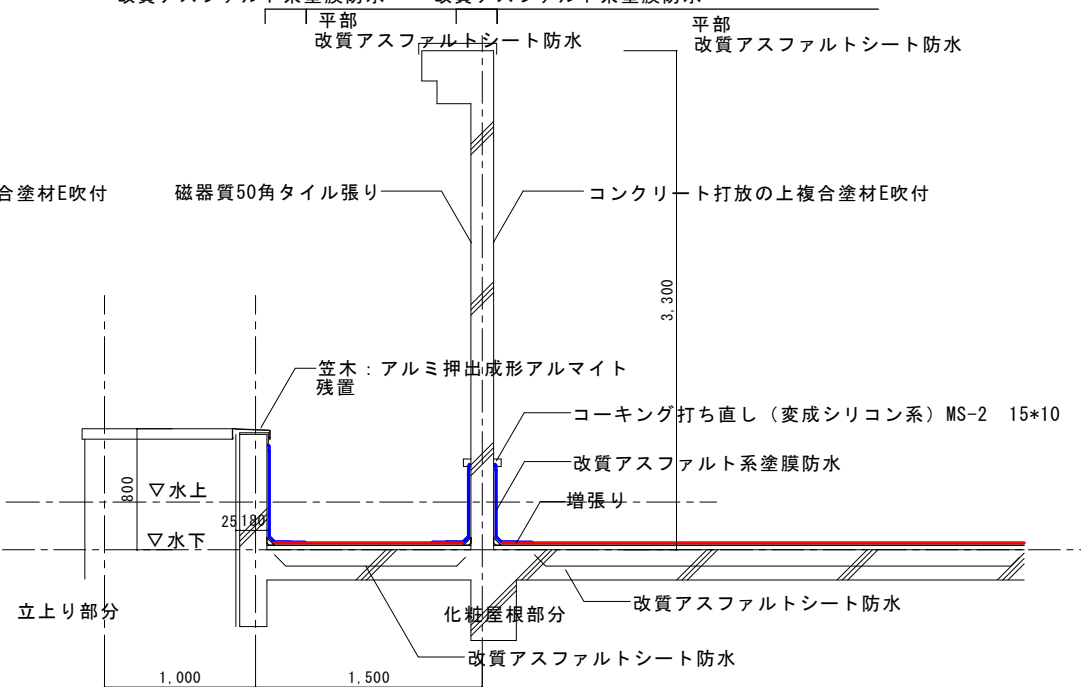
平部 水勾配1.5/100  
アスファルト外断熱露出防水  
6 t 保護化粧板敷

立上り部（パラペット部）  
改質アスファルト系塗膜防水



(X11)

立上り部（パラペット部）  
改質アスファルト系塗膜防水



(X11)

い-い断面図（改修後）

A1 : 1/25  
A3 : 1/50

立上り部  
改質アスファルト系塗膜防水  
（田島ルーフィング株式会社 PQ-260C 同等品）  
高圧水洗浄  
既存露出アスファルト防水残置  
（切開：炙り出し：ゴムアス系下地調整材塗布）  
既存露出アスファルト防水残置

平部 水勾配1.5/100  
改質アスファルトシート防水常温粘着工法  
（田島ルーフィング株式会社 GSF-2B・TH 同等品）  
乾式下地処理兼防水層 アスファルト成型版貼り  
高圧水洗浄  
既存露出アスファルト防水断熱工法6 t 保護化粧板敷仕上げ残置



一級建築士事務所 石川県知事 第 13322 号

（有）Mデザイン計画

一級建築士 第 215340 号 松本 勝

check

drawing



date

scale

A1 : 1/25  
A3 : 1/50

no.

title

地場産業振興センター新館屋上防水改修工事

drawing no.

A-11

drawing title

1 期工事  
R階断面図 2（改修前・改修後）

